

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中長期計画	<p>メディア・映像学科は、時代の要請に即したメディアと映像を生かして新しい文化的価値を創造する、幅広いメディアと映像の教育・研究を行い、広報、出版、放送、通信、マルチメディアなどの諸メディアの領域で役立つ知識と技能を有する人材を養成することを目的とし、次のような人材を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた場面設定に応じ、論理的思考能力や言語能力を活用することができる ・ICTの特性や社会との関連を理解し、情報の収集・分析、コンテンツの制作等に活かすことができる ・表現の手法について理解し、デザインやコミュニケーションの企画・構成ができる ・積極的な社会参加が出来る意欲をもち、集団社会に必要なマナー等を身につけている
-------	---

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	中長期計画に記しているように明確に設定している。積極的な社会参加や集団社会にも触れて建学理念に沿っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを明示 (http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	大学要覧、ウェブページ、広報用チラシなど、複数の媒体で学科の特徴について明示している。
年度目標	現状、利用している媒体以外の明示の仕方について検討をする。
年度報告	進路説明会などに参加し、積極的にその方法を検討している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科ウェブページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/) ②2018年度 社会連携活動情報(メディア・映像学科)まとめ.xlsx
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	地域との連携した活動を行うなどして、社会の情勢を踏まえながら学科を運営している。

年度目標	現状を維持する。
年度報告	各教員が専門性を活かして地域と連携した活動を行うなど、年度目標に従って着実に継続されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度 社会連携活動情報(メディア・映像学科)まとめ.xlsx
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	教職員の理解と支持は、得られている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	入学者も増加傾向にあるなど、年度目標に従って着実に継続されている
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① H31福山大学入学手続状況表(H310319pm).pdf
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	ウェブページを通して公表・周知を図っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	年度目標に従って着実に継続されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科ウェブページ(http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	社会の情勢を踏まえながら、必要に応じて反映できるよう検討している
年度目標	現状を維持する。
年度報告	必要に応じて学科会議で議論をするなど、年度目標に従って着実に継続されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①181010学科会議議事録.pdf

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	3ポリシーに反映させている
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを明示 (http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	整合性は取れているが、より充実した教育研究組織構築のためには、メディア表現・研究分野の教員が不足している。
年度目標	各教員の負担を減らすよう、学内リソース(OneDrive、メーリングリストなど)を利用し、効率的な組織運営を図るとともに、今の時代を鑑み、必要な分野の教員採用に向けて働きかける。
年度報告	効率的な運営のための努力は継続されているものの、必要な分野の教員採用には至らなかった。
達成度	B
改善課題	メディア表現・研究分野の教員不足
根拠資料	①学科メーリングリスト(media_and_visual@fukuyama-u.ac.jp)
次年度の課題と改善の方策	メディア表現・研究分野教員の再雇用に向けて働きかけを行う。

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

基準2. 学生

領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中長期計画	学生の受け入れ状況の改善のため、大学改革の柱となる「教育改革の推進」「就業力・就活力の増強」「広報活動の見直しと強化」「施設設備の更新と充実」「学生活動の活性化」を推進して、入学定員充足へ向け努力する。例えば、「就業力・就活力の増強」についてはインターンシップへの積極的参加を促し就活への動機づけを行う、「広報活動の見直しと強化」については学科HPや学長室ブログ・学科ブログを通じての教員・学生の活動報告や学科で開催する各種イベントの告知を継続して実施することなどを計画している。「学生活動の活性化」としては、学生作品を各種コンテストに応募させたり、学生の自主制作活動の強化などを実施している。学科のアドミッションポリシーを生かした、他学科と差別化できる入試(AO入試、指定校推薦入試等)の実施形態について精査し、改善する。
--------------	--

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	学部教授会で規定されている。 カリキュラム編成及び卒業・進級判定時に点検を行い、必要に応じて見直しを行っている。大学の方針に従い、各種ポリシーの点検と見直しを実施している。
年度目標	ポリシーの点検、見直しについては大学の方針に従う。学内外への周知はホームページ等で引き続き行う。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①H30学生便覧 ②学科ホームページ
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	ポリシー不適合、不本意入学等の学生については担任を中心に把握し、学科会議で共有している。また、学科専門分野の魅力の体験により、学修意欲が高まるよう指導している。オープンキャンパスなどでは、学科の学びを具体的に体験できる内容を、学科会議で議論しつつ準備している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①H30学生便覧 ②学科ホームページ ③入試のしおり、留学生入試募集要項、AO・指定校入試募集要項
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	入学生の受け入れ状況については学科会議で逐次検証、分析している。
年度目標	引き続き学科会議での検証、分析を継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続

点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	入学定員に対し学生受け入れれば不足していることは学科として把握しており、受け入れ数を増加させるための方策は学科会議で議論している。対策としては、実技系入試説明会への参加、学科長らによる周辺を中心とした高校への直接的な広報活動などを行い、学生受け入れ数は増加している。また、学科での議論をもとに、新規入試(実技を重視した指定校入試)を新設、平成31年度入試にて実施の予定。
年度目標	引き続き学生受け入れ数を充足させるための対策を行う。
年度報告	入学定員の充足のため、実技系入試説明会への参加、学科長らによる周辺を中心とした高校への直接的な広報活動などを行った。入学者数は増加傾向であるが、入学定員に達していない。
達成度	B
改善課題	今年度実技系入試を実施したが、志願者確保に至っていない。
根拠資料	①実技系入試パンフレット ②学科会議議事録 ③学科ブログ
次年度の課題と改善の方策	実技系入試の実施にいて周知させるため、広報活動を強化する。

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	学修支援部門メンバーの教員を中心に、全学的な学修支援活動に参加している。これは大学ホームページで公開されている。学科学生には、履修状況や成績をもとに、支援が必要と思われる学生には学修支援を受けるように、担任を中心にアドバイスを行っている。職員の関与は不足しているのではないかな。
年度目標	学科内の活動としては十分と考える。現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	平成30年度、SAを導入予定である。制作系のスキルのサポート、グループワークのサポート、機材操作のアシストなどを中心に授業に関与してもらうべく人選等を進めている。
年度目標	SAについては学科会議にて動向を把握しつつ、より効果的な関わりを検討しながら実行する。
年度報告	メディア実践など実技を伴う科目でSAを導入した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	キャリアデザインI～IIIの他、2年次基礎ゼミ、3年次専門演習、4年次専門ゼミでは、ゼミ担当教員と学生の間で情報社会とメディアについて議論することも多く、結果として専門性を活かした進路等を考える機会となっている。また、4年時ゼミでは月一回、担任以外の複数の教員が面談を行うことや、就職年度生以外も参加可能な、業界研究・企業説明会を実施するなどキャリア教育の充実に努めている。
年度目標	引き続き現状を維持する。
年度報告	4年生の就職希望者において内定率100%を達成した。その他の学生は大学院へ進学した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度進路先一覧
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	卒業生の進路に関しては担任を中心に収集してきた。卒業後の進路変更等に関してはプライバシーなどの観点から難しい面もあるが、可能なかぎり情報把握できるように努力している。
年度目標	引き続き現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	情報の収集。プライバシーの問題もあり、情報収集の難しさがある。
根拠資料	①学科会議議事録 ②過去3年間の進路先一覧
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	インターンシップについては、積極的に参加するよう学科教員からもアナウンスしている。また、幾つかの資格については、2年次の「基礎ゼミ」授業にて、サポートを行っている。
年度目標	引き続き現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	㊴ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	就職委員会を中心に、全学的な就職関連行事には積極的に参加するようアナウンスしている。また、各ゼミ担任も継続的なサポートを行っている。問題を抱えた学生については学科会議やMLで把握し、指導に反映している。
年度目標	引き続き現状を維持する。
年度報告	4年生の就職希望者において内定率100%を達成した。その他の学生は大学院へ進学した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度進路先一覧 ②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	㊴ 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	学科独自の経済的支援は行っていない。学生が奨学金等に応募する際は積極的にサポートしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	学科教員による個別の経済的支援は難しい。
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	㊵ 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	学科の、キャンパスハラスメント相談員を中心に相談を受け入れている。また、学生の動向については学科会議などで共有しつつ、複数の教員で学生と関わることでハラスメントが起きにくい状況を作っている。
年度目標	引き続き現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	現状の継続

点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	学科生を中心としたサークルについて、数名の教員が顧問として関わっている。国際交流については、交換留学等を積極的に推進している。
年度目標	引き続き現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	学科の校地、校舎等の整備は、全学の関連部門によって検討されることとなっている。メディア・映像学科の学修環境のうち、主なものはICT設備であり、映像等のメディア表現にかかわる学修環境については、学科会議で検討を行い、運営・管理を実施している。
年度目標	技術の進歩に対応した適切な学修環境を維持するため、学科会議において学修環境の整備方針を検討する。また、運営・管理においては、現状の方針を維持する。
年度報告	学科会議を中心に学習環境の整備について検討を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	メディア・映像学科では、映像などICTを活用した学修環境は必要不可欠の設備であり、十分に活用している。19号館5階のICT教室については、持ち込みパソコンに対応した学修環境となっていない。図書館については、教養ゼミや専門教育、卒業研究などで活用している。
年度目標	19号館5階のICT教室について、持ち込みパソコンに対応したメディア教室に改修できるように計画する。
年度報告	19号館5階(ICT教室)を持ち込みパソコンに対応したメディア教室に改修する計画を作成したが、予算ヒヤリングの結果、次年度以降の継続審議となった。
達成度	B
改善課題	持ち込みパソコンによる教育効果の向上のためには、19号館5階(ICT教室)の、学修環境改善を行う必要がある。
根拠資料	①学科会議議事録

次年度の課題と改善の方策	持ち込みパソコンを有効活用のため、再度、学修環境の改善について検討を行う。
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	全学で行う調査への協力とともに、担任から学生の要望などを収集し、学科会議において審議して学生の利便性の向上に取り組んでいる。
年度目標	学生の利便性を向上させるため、問題が発生した場合は学科会議で審議して、全学の関連部門に連絡して改善を要請する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	施設・設備は、学科会議での審議のもと適切に管理している。メディア・映像学科が主に使用する施設・設備は、19号館に配置され、学生数等を考慮した適切なものである。しかし、19号館5階のICT教室は設備が老朽化しているが、更新の予定はない。この部屋は持ち込みパソコンに対応した学修環境となっていない。
年度目標	19号館5階のICT教室について、持ち込みパソコンに対応したメディア教室に改修できるように計画する。
年度報告	19号館5階 (ICT教室) を持ち込みパソコンに対応したメディア教室に改修する計画を作成したが、予算ヒヤリングの結果、次年度以降の継続審議となった。
達成度	B
改善課題	持ち込みパソコンによる教育効果の向上のためには、19号館5階 (ICT教室) の、学修環境改善を行う必要がある。
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	持ち込みパソコンを有効活用のため、再度、学修環境の改善について検討を行う。
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	全学の規約にもとづき整備点検を行っている。問題点が発生した場合は、学科会議において審議して対処している。
年度目標	現状の方針を継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続

点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	現在、メディア・映像学科は、劇物・危険物を取り扱っていない。問題点が発生した場合は、学科会議において審議して対処している。
年度目標	現状の方針を継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学の規約にもとづき安全管理教育をを行っている。問題点が発生した場合は、学科会議において審議して対処する。防災訓練については、全学で実施した訓練に参加している。
年度目標	現状の方針を継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学修支援に関する学生の意見・要望については、担任や専門授業の専任担当者が把握する体制をとっている。その分析や検討結果については、学科会議で審議して対処している。
年度目標	現状の方針を継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続

点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望については、担任や専門授業の専任担当者が把握する体制をとっている。その分析や検討結果については、学科会議で審議して対処している。
年度目標	現状の方針を継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の継続
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	学修環境に関する学生の意見・要望については、担任や専門授業の専任担当者が把握する体制をとっている。その分析や検討結果については、学科会議で審議して対処している。
年度目標	現状の方針を継続する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の維持

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中長期計画	<p>卒業認定については、学科で策定したディプロマ・ポリシーのもとにカリキュラムを作成、卒業研究の評価を行う。</p> <p>教育課程については、カリキュラム・ポリシーのもとに基幹科目、関連応用科目、表現制作科目、総合演習科目で構成し、専門的な知識、技能と態度が、学年進行とともに身につく教育課程とする。また、自らの問題意識をもって主体的に追求し、身につけた知識、技能を実践的に活用するなかで各種能力を育成し、それらを社会での創造的な活動に結びつけられるように、表現制作科目と総合演習科目を編成し、実施する。</p> <p>学修成果に関しては、大学教育センターの授業評価アンケートの結果を参考としている。その他、第三者の実施する試験・検定やコンテスト等も適切なものを成果の指標とすることを検討する。成果発表を伴うものは、発表の場へ参加する人からのアンケートやコメントも参考データとする。これらによって学修成果の点検・評価事項を、学科の教育内容・学修指導の改善につなげるための機会を学科内で設けていく。</p>
-------	--

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	メディア・映像学科ウェブページ及び学生便覧に掲載して周知している。
年度目標	現状を維持。
年度報告	現状を維持。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①メディア・映像学科ウェブページ http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	学科会議において、次年度カリキュラム編成、学生便覧記載事項の議論の過程で検証している。その後、教務委員会、大学教育センター、学部教授会で審議され、これらは各会議の資料や議事録として管理されている。また、学生については年度始めのオリエンテーションで卒業認定基準(ルーブリック)を主に上級生を中心に配布し、周知をはかっている。3つのポリシーについて、メディア・映像学科のWebページに記載している。
年度目標	現状を維持。
年度報告	学科会議にて、カリキュラム編成や卒業認定基準ルーブリック内容について審議し、学生たちに年度初めのオリエンテーションやゼミ・セレッソ等で周知した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②メディア・映像学科Webページ ③学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	大学教育センターの指導の下に学科会議と学部教授会で承認し、評議会で審議している。単位認定基準は各教員で実施している。進級基準は学生便覧に記載があり、進級に関しては、全学の方針に基づき、総単位数と進級要件必修科目で学科会議、学部教授会、全学教授会で審議している。各学年で望ましい単位数が設けてあり、学生便覧により学内外へ周知している。「卒業研究」については複数教員で審査する形をとっている。
年度目標	現状を維持。
年度報告	単位認定基準はシラバスに、進級基準及び卒業認定基準は学生便覧に記載されており、新学期オリエンテーション時に学生に周知されている。また学科会議で各基準について厳正な適用が検証され、「卒業研究」については複数教員で審査を行った。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス ②学生便覧 ③H30メディア・映像学科卒業研究評価ルーブリック案v.7
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	平成28年度に全学的なスケジュールのもとに改定されたポリシーを学生便覧及び大学ホームページに示している。大学の教育理念を反映していることを、改定作業の中で確認している。
年度目標	現状を維持。
年度報告	現状を維持。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①メディア・映像学科ウェブページ http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/contents/ad-policy.html ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	平成28年度にカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーを作成する際に、GIOの検討作業を進め、そのワーキンググループを中心に問題がないことを確認している。
年度目標	現状を維持。
年度報告	現状を維持。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①181010学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	平成28年度に作成したカリキュラムマップのもとに、カリキュラム内容を精査し共有してきたが、社会情報系の講義においては開講期の点でまだ体系的とは断言できない部分がある。
年度目標	カリキュラムマップ、シラバスチェックシート(重みづけ)といった資料をもとに、改めてカリキュラム全体を精査し、検討する機会を設ける。

年度報告	学科会議にて、カリキュラムマップの確認とシラバスチェック並びにカリキュラム全体を見直す機会を設けた。映画会等で学外の有識者の方と意見を交わす機会があり、映像分析等のカリキュラム編成について見直したいという意見もあり、今後の検討事項となっている。
達成度	A
改善課題	映像分析等のカリキュラム編成の見直し
根拠資料	①180828学科会議議事録 ②190115更新_H31シラバス点検新様式シート
次年度の課題と改善の方策	映像分析等のカリキュラム編成の見直し
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	カリキュラムマップに位置付けを示している。卒業要件として10単位、複数科目群の取得を設定することで重要性を示している。さらに要件の中に、共通教育科目または専門教育科目で取得すべき17単位の枠を設け、教養教育の比重を増すこともできる。
年度目標	現状を維持。
年度報告	現状を維持。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018メディア_カリキュラムマップ ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	本学科では全学に先んじて個人PC必携化を進め、24時間学修できる体制づくりに取り組んできた。授業資料の提示や課題へのフィードバックをICTを駆使して行い、一部の授業では教授方法について受講生たちと相談をしながら進めるなど、効果的に講義を進められるよう努力をしている。
年度目標	学科会議において、個々の教授方法を共有する機会を設ける。
年度報告	学科会議等で、学生のPCリテラシー状況等の情報交換を行っているが、学科FDのような形で共有する時間をもつことができなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	学科FDの時間を設け、互いの教授法を共有する機会を設ける。
点検項目	⑥ ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	カリキュラムの検討、シラバスチェックシートの作成時に、学科のディプロマ・ポリシーと卒業判定との整合性について議論する時間を設けている。
年度目標	今年度も同様の時間を設け、必要に応じてカリキュラムや講義内容の変更を検討する。
年度報告	学科会議にて検討する機会を設け、現状のままいくこととなった。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①180828学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	「卒業研究」については、ディプロマ・ポリシーのもとに評価表を作成し、それを用いて評価を行っている。その他の講義については、担当教員の裁量に任されており、学科内で検証を行っているとは言えない。
年度目標	学科会議内のシラバスチェックの際に、学修成果の点検・評価の方法について、共有する機会を設ける。
年度報告	1月にシラバスチェックを学科教員総出で行い、互いの授業の点検・評価方法について共有し、見直す機会を設けた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①190115更新_H31シラバス点検新様式シート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	学期ごとに行われる授業評価アンケートの結果をふまえて、各教員が報告書を作成し、受講生たちへのフィードバックを口頭やICT環境を駆使して行っている。現状、これらの結果がどのように次なる教育内容、指導改善に活かされているかについては、学科内で共有できていない。
年度目標	学科会議等で、教育内容や指導改善に向けてどのような試みを進めているかを共有する機会を設ける。
年度報告	学期末に行われる授業評価アンケートを活用し、個々での授業点検の機会には設けられたが、学科全体でこのことについて共有する機会を設けることができなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	学科FDの時間を設け、学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげることについて検討する機会を設ける。

基準4. 教員・職員**領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

中長期計画	全学のマネジメントシステムにしがって適切な学科運営を行う。学科の目的を実現可能な資質を有する構成員による学科設置基準を満たす教育研究環境を維持する。
--------------	--

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学科長は学科会議を開催し、委員会・部会・学科長会議等からの要請等に応じて学科として対応を決定している。
年度目標	緊急な案件を除き、学科長の主催する学科会議での議論等をへて対応する。
年度報告	学科長のリーダーシップの下、年度目標に従って着実に継続されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	委員会等の分掌については学科内の合意形成の後、学科長会議で決定している。学科内の運営や業務とそれに必要な権限・役割を学科会議を通じて構成員に効率的に分配している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持する。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	修正後)教務課、学生課、就職課、学部事務室等とそれぞれの分掌に応じて連携を図り、機能性を高めている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	教務課、学生課、就職課、学部事務室等とそれぞれの分掌に応じて連携を図っている。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Office365のメディア・映像学科のドキュメント ②学科メーリングリスト
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	採用または昇任時に教員選考委員会において資質等について審査し、配置している。年齢構成と職階は概ね適切(年齢構成は30代2名、40代2名、50代1名、60以上2名。教授4名、准教授2名、講師1名)である。男女比は6対1で偏りが大きい。
年度目標	年齢としては30代の教員(助教または講師または准教授)を採用する。
年度報告	教員採用には至っていない。
達成度	B
改善課題	30代の教員の不足
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	採用(現在在職中の教員の再任用含む)に向けて一層の働きかけを行う
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	学科の教員構成は大学設置基準を満たしている。教職課程(教科:情報)を満たしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	年度目標に従って着実に継続されている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①180403学科会議議事録.pdf
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	全学及び学部で開催されるFD研修への参加を構成員に推奨しており、毎回、ほぼ全員が出席している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	学部FD、全学FDに積極的に学科教員が参加した。またシラバスチェックを通して、学科教員の資質向上に取り組んだ。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①平成30年度第5回人間文化学部教授会 議事録 ②190320学科会議議事録.pdf ③2019年1月7日付学科メーリングリスト「シラバスチェック」のメール
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	全学及び学部で開催されるFD・SD研修への参加を構成員に推奨しており、毎回、ほぼ全員が出席している。就職支援、学生相談、学生募集においては関連部局職員と連携している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	年度目標に従って着実に継続されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①190320学科会議議事録.pdf
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	教務関係ではゼルコバ、セレッソといったICT製品を活用している。学科会議等ではメールやクラウドドライブで情報を共有している。
年度目標	事務処理関係書類のICT活用を試みる。
年度報告	クラウドドライブ (OneDrive) を活用中であるものの、ICT環境によって同時編集に不具合がでるなどがあった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①181219学科会議議事録.pdf ②2019年1月7日付学科メーリングリスト「シラバスチェック」のメール
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	学科教員の多くは研究に専念できる日または時間帯を設定し、教員毎に教員室とゼミ室を割り当てている。大学予算で整備した機器・設備は共有物として管理し、利用情報等を学科教員で共有している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	年度目標に従って着実に継続されている。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①180606学科会議議事録.pdf
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	大学で定められた規則や定められた研修参加などで対応している。
年度目標	学科教員は定められた規則に従い、要請される研修等に参加する。
年度報告	年度目標にしたがって着実に継続されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度第4回人間文化学部教授会 議事録 ②180523学科会議議事録.pdf
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	研究活動の人的資源であるゼミ学生は研究内容にもとづいて各ゼミに配属されている。予算、機器、設備等は外部資金や外部機関等のリソース利用を推奨し、各ゼミで独立したものとしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	年度目標に従って着実に継続されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①190320学科会議議事録.pdf
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	大学で定められた規則や定められた研修参加などで対応している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	年度目標に従って着実に継続されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度第4回人間文化学部教授会 議事録
次年度の課題と改善の方策	

基準6. 内部質保証**領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

中長期計画	人間文化学部自己点検評価委員会を中心に、学科としても主体的に自己点検・評価およびそれに基づく改善改革等の活動を行えるような体制を構築する。特に自己点検・評価を改善・改革に結びつけるPDCAサイクルの確立を目指す。 メディア・映像学科は収容定員充足率・入学定員充足率ともに大きく落ち込んでいることから、研究教育活動や学生支援活動以外に学生募集に関してのPDCAサイクルを重視する必要がある。将来構想委員会、学科長会議で学生募集につながる魅力的な教育・研究・社会貢献活動の推進を受け、学科としても各充足率の向上に努める。
--------------	---

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	全学のシステムに合わせて学部自己点検評価委員会が設置されている。平成26年度の自己点検評価から自己点検評価委員会が稼働している。 全学・学部の方針に従い、学科会議において内部質保証に関する議論・点検等を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①H29自己点検評価書 ②大学HP ③福山大学自己点検評価規定 ④福山大学人間文化学部自己点検評価委員会細則 ⑤福山大学人間文化学部外部評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	大学全体の自己点検・評価のスケジュールに合わせて学科の自己点検・評価を行っている。学科の自己点検・評価に関しては、自己点検計画書・報告書を学科全教員で分担して執筆し、その内容を学科全教員で確認の上、学科会議で承認している。その過程で学科教員に共有されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①学科会議議事録(190215学科会議議事録.pdf) ②平成29年度福山大学自己点検評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	本学のIR室は2018年度に設置予定であり、現状は各部署が必要なデータの収集(および分析)を行っている。 教育活動に関しては、授業評価アンケートや卒業生向けアンケート、共通教育関係のアンケート等を大学教育センターの指示のもので実施し、授業評価アンケートについては各教員が分析し、授業内容改善を行っている。研究活動に関しては、学部リポジトリ委員会を設置して、学部紀要等をリポジトリに登録している。また、大学HPの研究者一覧への業績の掲載を進めている。
年度目標	IRなどの活用について学科会議を中心に議論し検討する。
年度報告	授業評価アンケートの分析、福山大学リポジトリへの紀要の登録は実施できた。またIR関係のFD/SDへの参加は出来たものの、IRの活用についての学科での議論には至らなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	IRなどの活用について学科会議を中心に議論し検討する。

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	2014年に学部自己点検委員会が設置され、この委員会を中心に自己点検を行っている。学科で作成した自己点検計画書・報告書は全学自己点検評価委員会が確認している。機能性の検証は学科では行っていない。
年度目標	機能性の検証を行なう。
年度報告	学科の自己点検計画書・報告書は学科全教員で分担して執筆し、その内容を学科全教員で確認の上、学科会議で承認しているが、機能性の検証には至っていない。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	機能性の検証を行う。
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	FD・SD研修で「科研費コンプライアンス研修」が実施され、誓約書を全員が提出し理解度テストを受けて検証した。また、研究倫理eラーニング教材を使用しての研究倫理教育や学部FDとして、アカデミック・ハラスメントに関する事例報告を行っている。 研究教育に関わる大学のルールはもとより、社会人としての常識とモラルを遵守するよ学部教授会・学科会議で学部長・学科長から要請している。

年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録(190320学科会議議事録.pdf) ②学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中長期計画	福山市南に位置する古くから開け、万葉にも歌われている歴史的文化遺産である「鞆の浦」を、これまで手をつけてこなかった福山大学が、地の利を生かして地域との交流を軸に調査研究し、経済的効果も含めて少子高齢化する現状も睨みながら掘り起こしや活用方法を検討してゆく。 少子高齢化は過疎化も促すため、地域の活力を後押しし、豊かな街づくりに繋げてゆきたい。 老朽化して朽ち果てる前に3DCGなどの方法を用いて歴史的町並みを後世に伝えるために記録する。
-------	--

2018年度

人間文化学部 メディア・映像学科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	来年度も引き続き授業の中で学生たちに現地を取材させ、3DCGの制作を続けて行く。単年度で学生が入れ替わる授業形式に加えて、ゼミの中でも積極的に活用して行く。
年度目標	一昨年度より取材と作成を続けてきた「澤村船具店」の一応の完成を目指したい。
年度報告	3DCG制作については、学部2年生の授業の中で扱ったが、時間的に短く、下ごしらえのような作業で終わってしまった。
達成度	B
改善課題	来年度は時間確保を進め、充実した物にするよう努力する。
根拠資料	① https://fukuyamauniv-my.sharepoint.com/personal/f24016_fukuyama-u_ac_jp/_layouts/15/onedrive.aspx?listurl=https%3A%2F%2Ffukuyamauniv%2Esharepoint%2Ecom%2Fsites%2Fmedia_and_visual%2FShared%20Documents&id=%2Fsites%2Fmedia_and_visual%2FShared%20Documents%2F%E6%98%A0%E5%83%8F%E3%83%BB%E5%86%99%E7%9C%9F%2F2017%2F3DCG%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6%2F%E6%BE%A4%E6%9D%91%E8%88%B9%E5%85%B7%E5%BA%97%2Emp4&parent=%2Fsites%2Fmedia_and_visual%2FShared%20Documents%2F%E6%98%A0%E5%83%8F%E3%83%BB%E5%86%99%E7%9C%9F%2F2017%2F3DCG%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6

次年度の課題と改善の方策	<p>昨年も記入して実行出来ていないが、2年次までの実習科目の中だけでは成果を上げることは難しい。3年次のゼミでの工夫を行い(具体的には渡辺ゼミ・中嶋ゼミの協力など)、効率的に成果を上げるよう工夫する。大学院を持たない学部の中だけでは、1年次は基礎で終わってしまい、2年次の実習科目の中が中心になるが、圧倒的に時間が足りない。3年次のゼミの活用が重要だと考えているが、3年次後半から4年次前半にかけては就活が中止となるため、CG制作に集中することが難しい。そのため次年度では他の授業(メディア応用実習、専門演習)の中でも取り上げていく。</p>
点検項目	<p>㊟ 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。</p>
現状説明	<p>何より地域の大学としての地の利を生かし、地域住民との積極的な交流から人的ネットワークを形成してきた。</p>
年度目標	<p>滞在型研究拠点整備による、さらなる人的交流を築いて研究を推進して行く。</p>
年度報告	<p>秋祭りの取材を通して地域住民との交流が始まったところである。</p>
達成度	<p>A</p>
改善課題	<p>活動の記録(根拠資料①参照)</p>
根拠資料	<p>① https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7B14FE5350-AF4F-4ACE-AD5B-86EDFB29CA52%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6%E3%83%95%E3%82%99%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%99%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%82%99%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E7%B5%8C%E9%81%8E%E5%A0%B1%E5%91%8A.docx&action=default&mobileredirect=true </p>
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	<p>㊦ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。</p>
現状説明	<p>今年度行った太田家住宅中庭でのイベントを軸に地域の企業などとの交流を進めた。</p>
年度目標	<p>さらには学生を積極的に参加させ、教育効果のある産学連携を進めていきたい。</p>
年度報告	<p>今年度からようやく鞆の浦の歳時記の記録を写真・映像・VR映像取材などで開始した。</p>
達成度	<p>A</p>
改善課題	

根拠資料	<p>① https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7B14FE5350-AF4F-4ACE-AD5B-86EDFB29CA52%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6%E3%83%95%E3%82%99%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%99%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%82%99%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E7%B5%8C%E9%81%8E%E5%A0%B1%E5%91%8A.docx&action=default&mobileredirect=true</p> <p>② https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7BB5CC1AD5-2EAD-4A18-9272-9E281D8D5B05%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%86%99%E7%9C%9F%E8%A8%98%E9%8C%B2%E3%83%81%E3%83%A7%E3%82%A6%E3%82%B5%E3%82%A4%E7%A5%AD%E3%82%8A2018-09-15%2C16.docx&action=default&mobileredirect=true</p>
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	人間文化学部、メディア・映像学科の一部の取り組みでしかないのが現状である。
年度目標	学部内の他学科や学部を超えての研究者による取り組みにしてゆきたい。
年度報告	今年度においてもメディア・映像学科だけの活動が多かった。
達成度	B
改善課題	学部全体で取り組むよう働きかける。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	鞆の浦学への取り組みの成果(CGなど)を学科ブログ等を用いて外部に公表する事によって、地域に貢献してゆくよう努める。
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	現状では調査もままならない状況で、人材育成までは到達していない。
年度目標	滞在型拠点の整備による地域住人との交流から人材育成につなげてゆきたい。
年度報告	秋祭りの取材を通して一部学生が地域の方との交流を行った。
達成度	B
改善課題	前項でも述べたが、学生が取材などで滞在する時間は圧倒的に少なく、人材育成まで繋がっていない。
根拠資料	① https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7B14FE5350-AF4F-4ACE-AD5B-86EDFB29CA52%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6%E3%83%95%E3%82%99%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%99%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%82%99%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E7%B5%8C%E9%81%8E%E5%A0%B1%E5%91%8A.docx&action=default&mobileredirect=true
次年度の課題と改善の方策	地域の方から鞆の浦の歴史や現状について話を聞く(話し合う)などの機会を設けることで交流が生まれるよう仕向けてゆく。

点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	現状はまだない。
年度目標	研究拠点整備でその関係を築いてゆきたい。
年度報告	研究拠点の整備で地域住民とのコミュニケーションを深め、学生の現地に赴く時間を増加させ学生との交流を広げてゆく。成果の検証はまだ行われていない。
達成度	A
改善課題	地域の核となる人物、朝宗亭のご主人との面会を実現させた。今後はさらに人的交流を広めるよう努力する。学生たちの滞在時間を増やすよう授業の内容を検討している。
根拠資料	① https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7B5B941A9E-BA3C-4408-891D-E7225B366B36%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%86%99%E7%9C%9F%E8%A8%98%E9%8C%B2%E6%9C%9D%E5%AE%97%E4%BA%AD2018-10-12.docx&action=default&mobileredirect=true
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地域の高齢者と学生の交流が始まったところである。この交流から人間形成につながる可能性がある。
年度目標	滞在型拠点の整備により生まれる学生と地域住人との交流。
年度報告	地域の高齢者の方達と学生との交流が始まった。この交流が学生の成長に役立つよう指導してゆく事で成果が見出せるよう方向性を検証してゆく。
達成度	A
改善課題	秋祭りへの一部学生の参加によって地域住民との交流のきっかけが出来た。さらに交流を深めるよう仕掛けてゆきたい。
根拠資料	① https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7BB5CC1AD5-2EAD-4A18-9272-9E281D8D5B05%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%86%99%E7%9C%9F%E8%A8%98%E9%8C%B2%E3%83%81%E3%83%A7%E3%82%A6%E3%82%B5%E3%82%A4%E7%A5%AD%E3%82%8A2018-09-15%2C16.docx&action=default&mobileredirect=true ② https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7B4CDF8B88-4E21-4E65-AA6E-CF3B12036E0A%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%86%99%E7%9C%9F%E8%A8%98%E9%8C%B2%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6de%20ART%E6%90%AC%E5%85%A52019-09-29.docx&action=default&mobileredirect=true
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	里山・里海の文化的な部分での取り組み
年度目標	地域の歴史研究家との関係から、地域の博物館展示にも協力する予定である。
年度報告	里山・里海の文化的な部分で取り組んでいる。
達成度	B
改善課題	瀬戸内の里山・里海学との関連はまだ薄いかもしれない。
根拠資料	<p>① https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7B14FE5350-AF4F-4ACE-AD5B-86EDFB29CA52%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6%E3%83%95%E3%82%99%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%99%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%82%99%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E7%B5%8C%E9%81%8E%E5%A0%B1%E5%91%8A.docx&action=default&mobileredirect=true</p> <p>② https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7B6BF01F81-72D1-4AE0-A0C2-CCAF34C5CDD6%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%86%99%E7%9C%9F%E8%A8%98%E9%8C%B2%E5%B1%B1%E7%94%B0%E3%81%95%E3%82%93%E6%8C%81%E5%AE%B62018-10-19.docx&action=default&mobileredirect=true</p>
次年度の課題と改善の方策	鞆の浦学発案当時からその歴史文化を地元の大学として掘り下げようとしていたことから「里山・里海」との関連性は希薄かもしれないが、その立地自体がまさに「里山・里海」であるとも考えられるので、関連づけるように取り組む。
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	内部は学内ブランディング予算で、毎年度要求する。外部資金については関連支援事業などを調査中である。
年度目標	外部資金の調査から申請に繋げてゆきたい。
年度報告	外部資金獲得のため支援事業を調査した。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	外部資金獲得のための支援事業調査の結果を受けて申請まで漕ぎ着けてゆく。
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	鞆の浦ひな祭りでの太田家住宅中庭におけるプロジェクションマッピングとクラシックコンサートによるイベント
年度目標	地域博物館での展示協力
年度報告	鞆の浦でアートにおける学生作品の発表、及び秋祭りにおける顕政寺境内の映像展示

達成度	A
改善課題	
根拠資料	① https://fukuyamauniv.sharepoint.com/:w:/r/sites/media_and_visual/_layouts/15/Doc.aspx?sourcedoc=%7B7A90EAE7-100D-4F6C-8DAE-8A8E22B6DCE8%7D&file=H30%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%86%99%E7%9C%9F%E8%A8%98%E9%8C%B2%E9%9E%86%E3%81%AE%E6%B5%A6%E3%81%B2%E3%81%AA%E7%A5%AD%E3%82%8A%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%83%882018-03-03.docx&action=default&mobileredirect=true
次年度の課題と改善の方策	